

氏 名：田中 由美子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第183号
学位授与年月日：2020年3月10日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論文審査委員：主査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）
副査 森 明子（聖路加国際大学教授）
副査 吉田 千文（聖路加国際大学教授）
副査 稲田 久美子（四国大学看護学部教授）

論文題目：都市部の大規模病院で子育てのために短時間勤務をする同僚と働く看護職の仕事に対する認識に影響する要因

博士論文審査結果

女性の就労支援への対策が進められる中で、看護職の職場でも子育て中の女性は増えており、短時間勤務のような異なる働き方をする看護職どうしが共に働ける職場環境の醸成が必要とされてきている。

そこで、本研究は子育てのために短時間勤務をする同僚と働く看護職の仕事に対する認識とその関連要因を明らかにすることを目的とした。研究方法は、自記式質問紙調査であり、関東圏の400床以上の施設に勤務する看護部長5名、看護師長59名および看護職427名から回答を回収した。時短勤務の同僚と働くことに対する認識には、因子分析の結果から、「業務負担の増加と休みの減少」「互いの働き方の尊重と協力」「安全な職場環境への変化」の3つがあると考えられた。これらの相関をみると、「互いの働き方の尊重と協力」の認識が高いほど「安全な職場環境への変化」の認識が高く、逆に「業務負担の増加と休みの減少」の認識は低かった。そのため、時短勤務で働く看護職がいる職場で重要となる「互いの働き方の尊重と協力」の認識の関連要因をみると、「集団の親密性」「秩序の尊重」「組織として的一致」といった集団の基本的仮定を特徴とする組織文化や、「看護師長の承認と支援」「勤務の公平さと負担軽減への配慮」という職場マネジメントの認識の高さがあげられた。

審査では、因子分析の方法と因子名の再検討の必要性、重回帰分析での目的変数と説明変数が過剰な点、全体にストーリー性がなく主張すべき点が不明確で、分析結果の羅列に終始している点、研究目的・仮説・結果・考察の一貫性のなさが修正点として指摘された。

これらを検討したうえでの修正が確認され、本研究は、子育てのために短時間勤務をする同僚と働く看護職に焦点を当て、そのような働き方や職場に対する認識を、その構成要素と関連要因について組織文化とともに示した点に独創性があり、異なる背景を持つ看護職が共

に働くための職場マネジメントを考えるうえで有用な結果を生み出している点が評価された。また、本研究の結果は、家族の介護や自身の闘病などの状況にある看護職との働き方にも活用することが期待できる点も評価された点であった。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。